

# 令和7年度 第1回 遠賀川学識者懇談会

## おんが 遠賀川総合水系 環境整備事業

- ① 事業採択後3年経過して未着工の事業
- ② 事業採択後5年経過して継続中の事業
- ③ 着工準備費又は実施計画調査費の予算化後3年経過した事業
- ④ 再評価実施後5年経過した事業
- ⑤ 社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業



# 1. 事業の必要性

## ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

### ●流域の概要、河川環境をとりまく状況

遠賀川流域概要図



### ■遠賀川流域の特徴

- 遠賀川流域は、福岡県北部の筑豊地方における社会、経済、文化の基盤をなすとともに、古くから続く稻作文化や石炭産業によって、わが国の近代化や戦後復興に大きな役割を果たす等、人々の生活や文化、経済と深く結びついてきた。
- 石炭輸送に遠賀川が活用され、石炭採掘による農地や道路の陥没、堤防の沈下等の鉱害が発生。そのため、鉱害復旧事業による河川改修が急速に進められた。
- 現在も流域の14%を農地が占める一方で、流域内各地には市街地が点在し、人口や資産の集積が著しい箇所もある。そのため、遠賀川には、農業用取水堰等の横断工作物や湛水区間が多く存在し、流域の資産を守るために排水樋門・樋管が多く設置してきた。

### ■各区間の特徴

#### <上流部>

- 上流部周辺の山々は国定公園や県立自然公園に指定され、四季の景に恵まれた渓谷等豊かな自然環境を有し、人々の憩いの場や身近な自然環境として親しまれている。
- 遠賀川は、扇状地に耕作地が広がり多くの堰により湛水域が連続し、その周辺にはヤマトシマドジョウ等の魚類が生息し、水際にはツルヨシやマコモ群落が分布している。

#### <中流部>

- 中流部では、上野焼、高取焼等の焼物や平野部を利用した稻作が盛んに行われている。
- 遠賀川の河床勾配は緩く、流路の蛇行と広い高水敷が特徴的な河川景観となっており、流路は緩やかに蛇行を繰り返し、所々に瀬や淵が見られる。高水敷は多目的広場、人工草地等として利用され、河岸には、ヨシやオギ群落が帶状に分布し、水域にはカネヒラやギギ、オンガスジシマドジョウ等の魚類が生息している。

#### <下流部>

- 下流部では、右岸側を中心に北九州市のベッドタウンとして人口が集中している。中間市では、「遠賀川水源地ポンプ室」が、明治日本の産業革命遺産の構成資産のひとつとして2015年に世界遺産に登録された。
- 遠賀川下流部は、遠賀川河口堰の湛水域になっており、水際や植生は直線的な低水護岸により単調である。水域には、止水性のギンブナやコイ、外来種であるオオクチバス等の魚類が生息している。下流部の自然豊かな空間として唯一まとまった面積を持つ中島は、湿性草木群落や竹林・木本等の植生が多様であり、ツグミやサギ類等の様々な鳥類の採餌場、ねぐらとなっている。

#### <河口部>

- 遠賀川の河口付近は干潟や砂浜が減少傾向にある。わずかな干潟や砂浜には、シギ・チドリ類の採餌場となっており、ヒモハゼやハクセンシオマネキ・ハマボウ等の魚介類や植物の生息・生育場となっている。

# 1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

## ●遠賀川水系の河川環境の整備と保全に関する目標

- ◆ 生物多様性保全の観点から遠賀川が本来有している瀬・淵、ワンド・たまり、砂州、ヨシ原等の湿地環境等、多様な河川環境の保全・創出を図る。河道掘削や護岸等の河川整備の実施にあたっては、生物の移動における縦断的・横断的な連続性の確保や自然の営みを視野に入れた多自然川づくりを推進する。
- ◆ 引き続き、関係機関と連携して現状の水質を保全するとともに更なる水質の向上を目指す。
- ◆ 世界文化遺産に登録されている「遠賀川水源地ポンプ室」に代表される歴史的空間や文化遺産、上流部の田園風景や山間渓谷美に富んだ渓谷環境、沿川市街地と調和したまちなみ等の景観資源の保全と調和を図るとともに、地域の暮らしや風土、文化、歴史と調和した良好な河川景観の保全・創出を図る。また、流域市町村や住民団体等とも協働しながら魅力ある良好な水辺景観の創出を図る。
- ◆ 遠賀川流域で古くから行われてきた伝統行事や祭り等が継承できる川づくりを図る。また、環境教育の場等多様な利用ができるよう、人々が川とふれあい、親しむことのできる潤いのある水辺空間の保全・創出を図るとともに、人と川との豊かなつながり・ふれあいの場の保全・創出も図る。
- ◆ 流域として生態系ネットワークの形成を促進するため、県・市町村・関係機関や住民団体等と連携・協働し、多様な生物の生息・生育・繁殖環境の保全・創出を図る。また、生態系ネットワーク形成の推進によって得られた豊かな自然を、歴史・文化的資源等と有機的につなげることで、観光振興や交流人口の増加等にもつながるよう取り組む。

※遠賀川水系河川整備計画(変更)【令和4年3月】抜粋

## 1. 事業の必要性

## ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

## (1) 地域開発の状況

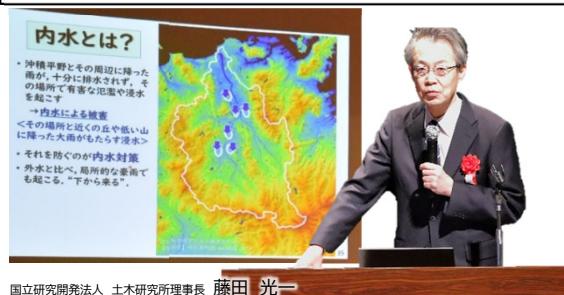
○令和6年2月24日(土)、福岡県飯塚市にて「遠賀川流域治水シンポジウム」を開催し、約300名が来場。

○遠賀川の流域治水をさらに進化させるため、流域自治体の結束を図るとともに、流域住民の意識向上を図ることを目的に開催。

○遠賀川流域内の関係機関、河川協力団体等により、全ての関係者が協働して実践する「遠賀川の流域治水」のキックオフ宣言がされた。

## ■ 基調講演 「遠賀川のこれまでとこれから」

「河川中心から流域治水への転換する必要性や流域治水の主役は住民であること」を強調された。



## ■パネルディスカッション

住民一人一人が主役であり、よく理解した上で、特定都市河川法等の枠組みを活用しながら流域治水を実践することが重要。

## ●コーディネーター

本部防災ネットワーク主幹  
兼報道情報局解説委員

●パネリスト

遠賀川改修期成同盟会 会長 直方市長  
飯塚市長  
防災士  
遠賀川河川協力団体連絡会  
遠賀川河川事務所

#### ●アドバイザー

国立研究開発法人 土木研究所理事長

## 【遠賀川水系流域治水の施策について】

あらゆる関係者が協働して流域全体で行う治水対策、「流域治水」へ転換。

- ①氾濫をできるだけ防ぐ、減らす対策
  - ②被害対象を減少させるための対策
  - ③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

} をハード・ソフト一体で多層的に進める。



キックオフ宣言

遠賀川の「流域治水」の実践に向けて、流域自治体の首長、県、河川協力団体等総勢32名によるキックオフ宣言を行った。



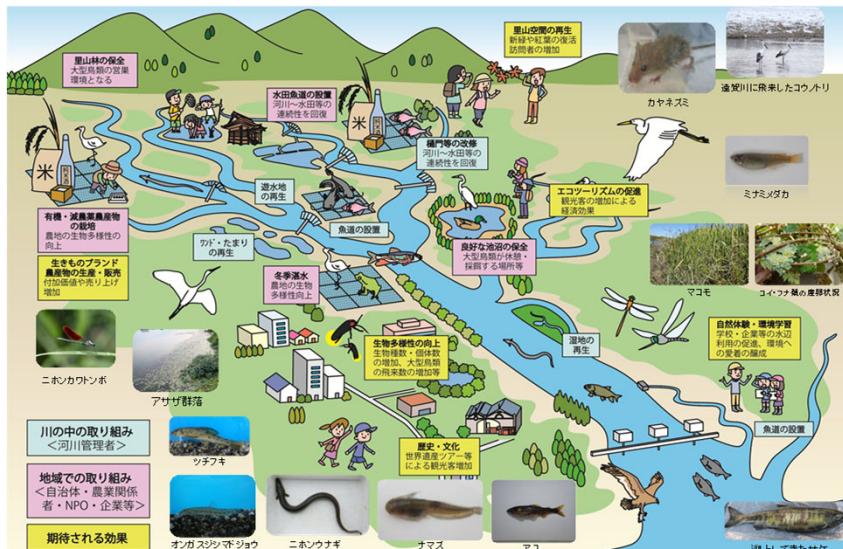
## 1. 事業の必要性

## ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

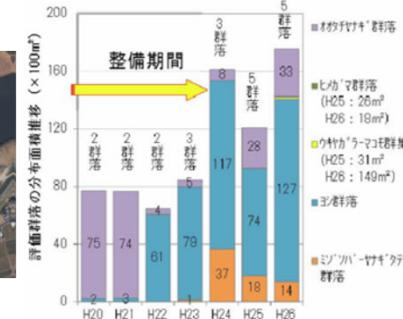
## (1) 地域開発の状況

## 【遠賀川流域生態系ネットワーク】

- ・平成24年1月の遠賀川流域リーダーサミットにおいて、「遠賀川の豊かな水の流れや生態系を守るため、一体となって水源の森林や多様な生物の生息・生育環境を育てる」等を目標と掲げる「遠賀川流域宣言」がなされた。
  - ・このような背景のもと、遠賀川を基軸とした生態系ネットワーク形成を促進している。遠賀川流域生態系ネットワーク形成の取組は、自然再生事業を含む流域全体の取組み方針として位置づけられており、河川における湿地環境の保全・再生のため「中島自然再生事業」、河川の縦断的連続性の保全・再生のため「遠賀川河口堰魚道改良事業」、河川とその周辺の横断的連続性の再生のため「遠賀川水系エコロジカルネットワーク再生事業」を実施している。
  - ・遠賀川水系エコロジカルネットワーク再生事業のモデル地区5箇所の整備が完了し、一定の事業効果を確認し流域での更なる取組推進を図るべく「遠賀川水系自然再生計画書(案)令和5年2月」の改訂により、モデル地区11カ所の追加整備を実施している。



## 遠賀川生態系ネットワーク(イメージ図)



中島自然再生事業



## 遠賀川河口堰魚道改良事業



エコロジカルネットワーク再生事業

# 1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

## (1) 地域開発の状況

【生物の生息・生育・繁殖の場としてもふさわしい河川整備及び流域全体としての生態系ネットワークのあり方】提言(R6.5月)

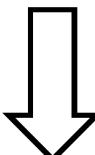
### 提言概要

現状

- 平成9年の河川法改正により、治水などと同様に、河川環境の整備と保全が目的に位置づけられたことをはじめ、河川行政においては、多自然川づくりなど、様々な河川環境施策を進めてきた
- 今後は、従来の河川環境施策に加え、近年の社会経済情勢等の変化を踏まえた充実が必要

河川を取り巻く  
社会経済情勢等  
の変化

気候変動による影響  
河川管理施設等の老朽化  
生産年齢人口の減少や働き方改革



ネイチャーポジティブに向けた国際的な動き  
企業の環境意識の向上  
流域治水の推進を通じた流域住民の意識の変化  
DXに象徴されるようなデジタル技術等の新技術

### 今後の河川整備等のあり方

#### 河川における取組

##### (1) 河川環境の目標

- 治水対策と同様に、河川環境についても目標を明確にして、関係者が共通認識の下で取組を展開
- 「生物の生息・生育・繁殖の場」を河川環境の定量的な目標として設定
  - 河川整備計画へ河川環境の定量的な目標を位置づけ、長期的・広域的な変化も含めて評価
  - 河川や地域の特性を踏まえた目標の設定 など

##### (2) 生物の生息・生育・繁殖の場を保全・再生・創出

蓄積された知見や社会経済情勢等の変化を踏まえ、全ての河川を対象に、多自然川づくりを一層推進

- 調査、モニタリング等を通じ順応的に管理
- 災害復旧や施設更新を、ネイチャーポジティブを実現する機会と捉え、環境も改善 など

#### 流域における取組

##### (1) 流域連携・生態系ネットワーク

- 流域治水の推進を通じた、流域が連携して取り組む機運の高まりを、流域の環境保全・整備にも展開
- 流域治水の取組とあわせ、グリーンインフラの取組を展開
  - 生態系ネットワーク協議会の取組の情報発信・共有
  - 関係機関と連携した環境データの一元化や共同研究の促進 など

##### (2) 流域のあらゆる関係者が参画したくなる仕組みづくり

ネイチャーポジティブの動きや民間企業の環境意識の高まりを踏まえた仕組みづくりを推進

- 民間企業等による流域における環境活動の認証、官民協働に向けた支援や仕組みの充実
- 利用しやすい環境関連データの整備と情報発信 など

# 1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

## (1) 地域開発の状況

### 【自治体の取組】(福岡県)

- ・福岡県では、安全な自転車交通を確保すると共に、心身の健全な発達に寄与することを目的として、遠賀川の飯塚市から河口まで川沿いに3つのサイクリングロードの整備が行われている。
- ・また、福岡県では、自転車で県内各地域を周遊する「サイクルツーリズム」を推進するために、街と自然が共存する福10(ふくてん)ルートとして、直方・宗像・志賀島ルートも含めた10箇所のサイクルルートを提案しており、自転車を利用した健康づくりや観光振興を図っている。
- ・上記の取組と連携し、沿川市町では観光・レジャーを目的としたレンタサイクル事業が展開されており、来訪者の利便性の向上とともに地域の魅力向上に寄与している。



海岸及び遠賀川でのサイクリングロード利用状況



福岡県では、直方・宗像・志賀島ルートも含めた10箇所のサイクルルートを提案している。

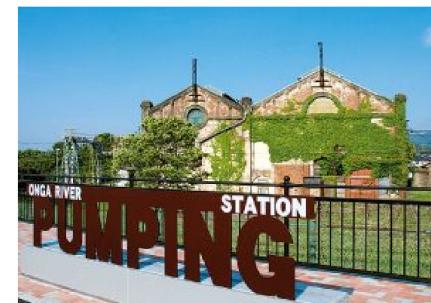
model route ① 約105キロメートル



### 直方・宗像・志賀島ルート

遠賀川から海沿いの絶景へと景色の変化を楽しみながら福岡の歴史を感じるルート

### 遠賀川水源地ポンプ室（中間市）



100年以上の時を超え、今でも現役で稼働している施設。平成27年に世界遺産に登録された



遠賀川でのサイクリングロード利用状況



サイクルツーリズム推進のためのサイクルルート例

# 1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

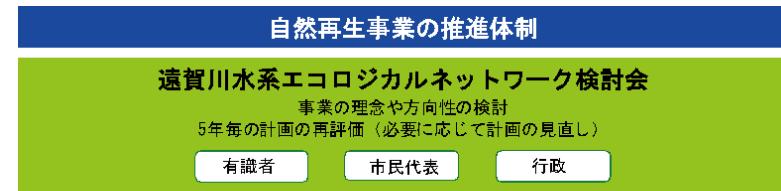
## (2) 地域の協力体制(遠賀川水系エコロジカルネットワーク)

◆遠賀川流域において、調査から管理・モニタリング・評価までの一連の取り組み過程を学識者や関係自治体及び地域住民、NPO等と連携して着実に事業を推進するため、遠賀川水系エコロジカルネットワーク検討会や住民ワーキング等を開催し、流域住民が一体となって持続的に参画していく仕組みを構築している。

◆整備が完了した箇所では、地域住民による維持管理等が実施されている。今後も地元関係者を中心とした整備内容や維持管理に関する会議を通じて協議・支援を行っていく予定としており、引き続き地域の協力が見込まれる。



住民ワーキングによる利用案内パネルの作成



事業の推進体制

住民ワーキングの実施状況

住民ワーキング名	実施年度	参加者
生物が棲みやすい川づくりを考える会 (下境地区)	平成21 年度～平成24 年度	地域住民、国(河川管理者)、直方市
御徳地区エコロジカルネットワーク住民ワーキング	平成25 年度～平成30 年度	地域住民、小竹北小学校、NPO（「小竹に住みたい」まちづくりの会）、小竹町、国(河川管理者)
目尾地区エコロジカルネットワーク住民ワーキング	平成29 年度～	地域住民、鯰田小学校、幸袋校小学部、NPO(目尾水辺の会)、飯塚市、国(河川管理者)
上西郷地区エコロジカルネットワーク住民ワーキング	平成30 年度～	地域住民、嘉穂小学校、NPO(嘉穂水辺の楽校周辺の環境を守る会)、飯塚市、国(河川管理者)
金生地区エコロジカルネットワーク	令和 2 年度～	地域住民、営農関係者、トヨタ自動車九州(株)、NPO(宮若川づくり交流会)、宮若市、国(河川管理者)
漆生地区エコロジカルネットワーク	令和7年度～	(予定) 地域住民、営農関係者、住民団体、嘉穂市、国(河川管理者)



地域住民参加の生物調査



地域協働によるオオキンケイギクの駆除



意見交換会(現地ワーキング)開催

# 1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

## (2) 地域の協力体制(田川地区かわまちづくり)

- ◆学識者、住民代表、関係行政機関及び河川管理者により構成される「田川の宝！彦山川を創る会」を平成27年10月に設立し、平成28年4月にかわまちづくり支援制度に登録された。登録後も年間3～4回の頻度で協議を重ねながら具体的な整備プラン等の検討を進め、令和6年度には整備が完了した。
- ◆整備対象箇所では、現在においても利活用の試行実践や、地域のボランティア団体を設立しゴミ拾いの美化活動等の維持管理を行っており、引き続き地域の協力が見込まれる。



上流部会 現地視察の状況



試行イベント「彦山川で水辺あそび」  
令和元年度開催状況

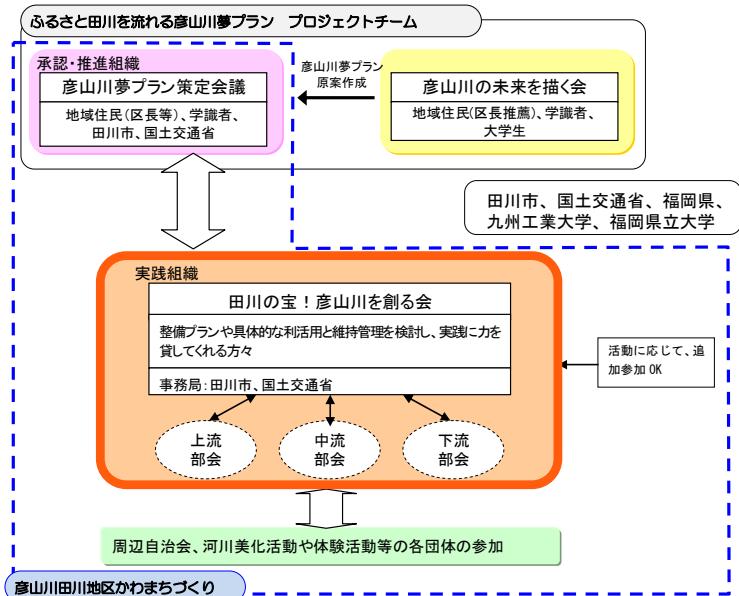


試行イベント「彦山川で水辺あそび」  
(川くだり) 令和5年度開催状況



ボランティア団体「田川の宝！彦山川を創る会 中流部会」による維持管理活動

### 田川地区かわまちづくり推進体制



### 田川の宝！彦山川を創る会、各部会の実施状況

組織名	実施年度	参加者
田川の宝！彦山川を創る会	平成27年度～	地域住民、学識経験者、上流部会、中流部会、下流部会、田川市商工会議所、田川郷土研究会、国(河川管理者)、田川市
上流部会	令和元年度～	地域住民、鎮西小学校、鎮西校区活性化協議会、田川ふるさと川づくり交流会、田川郷土研究会、三井鎮西地区、国(河川管理者)、田川市
中流部会	平成30年度～	地域住民、伊田小学校、伊田中学校、伊田校区活性化協議会、NPO法人風治さつきの会、まつりIN田川実行委員会、川渡り青年友会、田川郷土研究会、伊田商店街振興組合、国(河川管理者)、田川市
下流部会	令和元年度～	地域住民、金川小学校、金川校区活性化協議会、まつりIN田川実行委員会、NPO法人田川市スポーツ協会、輪村おこし会、田川市特定農業施設管理基金井堰関係者協議会、国(河川管理者)、田川市

# 1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

## (2) 地域の協力体制(中間地区かわまちづくり)

◆自治会、NPO法人、商工会、学校関係者、関係行政機関及び河川管理者により構成される「遠賀川かわまちづくり推進協議会」、「遠賀川かわまちづくり作業部会」を平成30年3月に設立し、かわまちづくり計画の検討を進め、平成31年3月にかわまちづくり支援制度に登録された。登録後も年間2~3回の頻度で協議を重ねながら具体的な整備プラン等の検討を進め、令和6年度には一部の区間を残し整備が完了した。

◆整備対象箇所は既に中間市が占用しており、現在においても日常利用だけでなく各種イベント・祭りの場として活発に利活用されている。推進協議会や作業部会において、利活用や維持管理に関する協議が継続的に行われているため、引き続き地域の協力が見込まれる。



「遠賀川かわまちづくり推進協議会」の開催状況



現地視察会の状況



住民による高水敷の利用状況



青年会議所主催によるウォークラリー

### 中間地区かわまちづくり推進体制

#### 承認・推進組織

遠賀川かわまちづくり推進協議会

(自治会、NPO法人、商工会、学校関係者、中間市、福岡県、国土交通省)

#### 実践組織

遠賀川かわまちづくり作業部会

(事務局: 中間市、国土交通省)

※活動内容に応じて、追加参加が可能

将来的には、周辺自治体、河川美化活動や  
体験活動等の各団体の参画を期待

### 推進協議会、作業部会の実施状況

組織名	実施年度	参加者
ふるさとなかま遠賀川 かわまちづくり推進協議会	平成30年度～	中間市自治会連合会、NPO法人中 間市地域活性化協議会、中間商工 会議所、中間市校長会、中間市生涯 学習推進協議会、中間市議会、福岡 県。国(河川管理者)、中間市
ふるさとなかま遠賀川 かわまちづくり作業部会	令和元年度～	中間市自治会連合会、NPO法人中 間市地域活性化協議会、中間商工 会議所、中間市校長会、NPO中間 市観光まちづくり協議会、ルアー ショップロッドマン、中間市議会、福 岡県。国(河川管理者)、中間市

# 1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

## (2) 地域の協力体制(飯塚地区かわまちづくり)

- ◆遠賀川河川敷を利用することで更なる地域の発展を目指して、平成31年2月に「遠賀川と飯塚河川敷を市民の憩いの場にしよう会」が発足し、遠賀川水辺ピクニックやナイトリバーin飯塚を開催してきた。
- ◆また、上記活動による河川利用ニーズの高まりを受けて、令和5年12月に「飯塚憩いの会かわまちづくり協議会」を、令和6年5月に「飯塚憩いの会かわまちづくり作業部会」を設立し、地域住民・学識者・行政が連携して検討を重ねてきた。検討の結果、令和7年1月には飯塚地区かわまちづくり計画が策定され、同年8月に「かわまちづくり」支援制度に基づき計画が登録された。
- ◆飯塚地区では、社会実験としてイベント開催を重ね、協議会や作業部会において利活用や維持管理に関する協議が継続的に行われている。また、「I Love 遠賀川」等の様々な機会で地域住民が主体となり行政や関係機関が一体となって清掃活動等を行っているため、地域の協力が見込まれる。



「飯塚憩いの会かわまちづくり協議会」の開催状況



作業部会での現地視察会の状況



遠賀川水辺ピクニックの開催状況



清掃活動イベント「I Love 遠賀川」

### 飯塚地区かわまちづくり推進体制

#### 承認・推進組織

飯塚憩いの会かわまちづくり協議会 ※1

(有識者、地元、商工関係者、医療関係者、住民団体、飯塚市、県土整備事務所、国土交通省)



#### 実践組織

飯塚憩いの会かわまちづくり作業部会 ※2

(有識者、地元、商工関係者、医療関係者、住民団体、飯塚市、県土整備事務所、国土交通省)

※活動内容に応じて、追加参加が可能



将来的には、周辺自治体、河川美化活動や  
体験活動等の各団体の参画を期待

### 協議会、作業部会の実施状況

組織名	実施年度	参加者
飯塚憩いの会 かわまちづくり協議会	令和5年度 ～	近畿大学産業理工学部、飯塚片島まちづくり協議会、立岩地区まちづくり協議会、飯塚市商店街連合会、吉原町商業団、しんいいづか商店街振興組合、(一社)飯塚青年会議所、飯塚商工会議所、飯塚病院、飯塚川づきあい交流会、福岡県、国(河川管理者)、飯塚市
飯塚憩いの会 かわまちづくり作業部会	令和6年度 ～	近畿大学産業理工学部、飯塚片島まちづくり協議会、立岩地区まちづくり協議会、郷土史家、飯塚市商店街連合会、吉原町商業団、しんいいづか商店街振興組合、(一社)飯塚青年会議所、飯塚商工会議所、飯塚病院、飯塚川づきあい交流会、福岡県、国(河川管理者)、飯塚市

# 1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

## (3) 関連事業との整合/遠賀川水系全体

- ◆遠賀川総合水系環境整備事業の上位計画である遠賀川水系河川整備計画（変更）【令和4年3月】では、遠賀川に慣れ親しみ、ふれあうことによって地域の歴史や文化がはぐくまれ、居心地のいい安らぎと愛着のある遠賀川をめざして、4本の大きな柱に沿って川づくりを進めることとしている。
- ◆遠賀川総合水系環境整備事業はこれらの目標を見据えて事業を推進しているところであり、事業を通じて着実に目標を達成しつつある状況である。

### ○災害に強く、安心してくらせる川づくり(安心・安全)

安心  
安全

遠賀川流域は水害が頻発しており、流域の安全度は十分に確保されていません。遠賀川の整備については、本計画で定める目標の洪水に対し、被害の防止又は軽減を図るための整備を実施します。

さらに、気候変動の影響も踏まえ、流域全体のあらゆる関係者と共に、被害の軽減に向けた「流域治水」を推進し、人命を守り、社会経済被害を最少とするこをめざします。



自然環境を保全するための  
河川環境調査



子どもたちによる  
水生生物調査

### ○人と自然をはぐくむ清らかな川づくり(環境)

環境

河川を利用する人や様々な生きものが遠賀川の恩恵を受けてくらしを営んでいます。しかし、気軽に川に近づけないところや、水質やゴミの問題など解決すべき課題も残っています。人が川に親しむことのできる整備をはじめ、川にすむ生きものの生息・生育・繁殖環境の形成や、水の流れと水質の改善の取り組みによって、人と自然をはぐくむ清らかな川をめざします。



関係機関との連携・協力  
によるオオキンケイギクの駆除

### ○川と地域が育てる豊かな文化(歴史・文化・観光)

歴史  
文化  
観光

遠賀川のもたらす自然と人々の営みが地域の歴史や文化であり、川と人との関わりは今までたえることなくつづき、川はまちの顔、地域の財産として世代を超えて伝承されてきました。このような川と流域が織り成す歴史や文化が継承され、地域住民が川に誇りをもち、さらには、新たな歴史・文化・観光が創出されるような川をめざします。

### ○人が川とふれあい、まちの活力とにぎわいを創出する遠賀川(まち・かわ・ひと)

まち  
かわ  
ひと

川は時として人々のくらしを脅かす存在ですが、一方で、人々が集い、にぎわい、いやされる空間でもあります。人が川とふれあい、親しみ、愛着を持ち、集うことによって、まちの活力とにぎわいが創出できるような川をめざします。

# 1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

## (3) 関連事業との整合/飯塚地区

【飯塚市都市計画マスターplan（令和4年2月策定）】

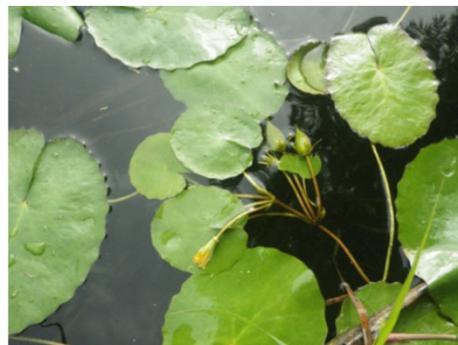
◆飯塚地区に位置する遠賀川河川敷広場は、市民と協働で利活用を協議・検討し、市民のやすらぎの場となるように整備を行うこととしている。特に、河川敷の管理方法を検討するなど、効果的な土地の利活用を図ることとしている。



# 1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

## (4) 河川環境等をとりまく状況(自然環境)

- ◆上流部は、扇状地に耕作地が広がり多くの堰により湛水域が連続し、水域にはヤマトシマドジョウ等の魚類が生息し、水際部にはツルヨシやマコモの群落が分布している。また、一部にはアサザ等の浮葉植物や沈水植物が生育している。
- ◆中流部は、流路は緩やかに蛇行を繰り返し、所々に瀬や淵が見られる。高水敷は多目的広場、人工草地等として利用され、河岸には、ヨシやオギ群落が帯状に分布し、水域にはカネヒラやギギ、オンガスジシマドジョウ等の魚類が生息している。
- ◆下流部は、水域には、止水性のギンブナやコイ、外来種であるオオクチバス等の魚類が生息している。下流部にある中島は、湿性草木群落や竹林・木本等の植生が多様であり、ツグミの採餌場やオオヨシキリの営巣地のほか、多くの昆虫類の生息場となっている。
- ◆河口付近の干潟は、シギ・チドリ類の採餌場となっており、ヒモハゼやハクセンシオマネキ・ハマボウ等の魚介類や植物の生息・生育場となっている。



アサザ (上流部)



カネヒラ (中流部)



ギギ (中流部)



オンガスジシマドジョウ (中流部)



オオクチバス (下流部)



オオヨシキリ (下流部)



アオアシシギ (河口部)



ハクセンシオマネキ (河口部)

# 1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

## (4) 河川環境等をとりまく状況(歴史及び文化)

◆遠賀川流域には歴史的に重要な史跡・名勝や建造物、祭りや信仰、天然記念物など、貴重な文化財、文化遺産も数多く存在する。代表的なものとしては、国の重要文化財「旧伊藤家住宅」、「英彦山神社奉幣殿」、「立岩遺跡堀田甕棺群出土品」、国の特別史跡「王塚古墳」、国の特別天然記念物「古処山ツゲ原始林」など、多数の国指定文化財があり、そのほか世界文化遺産の「遠賀川水源地ポンプ室」、世界の記憶の「山本作兵衛炭鉱記録画・記録文書」、文化庁の歴史の道百選に選ばれた「長崎街道-冷水峠越」「秋月街道」「堀川」などがある。

さらには、鮎神社の「献鮎祭」や風治八幡宮の「川渡り神幸祭」など、古くから川にまつわる信仰や祭りも執り行われている。また「嘉穂劇場」は、石炭産業の発展とともに娯楽の場として人々に愛されてきた。このように、遠賀川は古来より流域の人々の生活、文化の源流ともいえ、流域の人々の暮らしに大きな影響や恩恵を与えてきている。

◆このような流域の歴史・文化等を地域住民への教育普及と交流促進、観光客への情報発信、歴史・文化遺産の保存活用を目的として活動している団体もある。



旧伊藤伝右衛門邸(飯塚市)



英彦山(添田町)



遠賀川水源地ポンプ室(中間市)



王塚古墳(桂川町)



川渡り神幸祭(田川市)



嘉穂劇場(飯塚市)

# 1. 事業の必要性

## ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

### (5) 河川の利用状況

- ◆広い川幅を有する下流部は、高水敷において多目的広場やグランド、サイクリングロード等が整備され、日常の散策やスポーツ・レクリエーションの場として利用し、沿川住民のみならず広く地域の人々の身近な空間として親しまれている。
- ◆中上流部では、高水敷を利用したオートキャンプ場や芝生公園が河川公園として整備され、これらの施設を活用したカヌー・自然体験・レジャー・夏の風物詩である花火大会等、各所で地域イベントが開催され、多くの人々が訪れている。
- ◆支川の彦山川では、英彦山山系の自然のなかで、登山・バードウォッチング等の多彩なアウトドアを楽しむことができ、また、花火大会や福岡県の五大祭りの一つに数えられる川渡り神幸祭等が行われ、川との触れ合いが多い。
- ◆遠賀川流域では、約80の住民団体が環境保全活動等を展開しており、河川愛護活動や河川環境教育が盛んに行われている。また、河川を子供たちの環境学習の場として利用したいと考えている小中学校の先生方を支援するため、遠賀川河川環境教育研究会等を開催し、先生方が抱える問題点の解決策や多くの先生方が河川環境教育に取り組んでいくような対応策の検討を行っている。



フットパス(中間市)



サイクリングロード(芦屋町)



のおがたチューリップフェア(直方市)



いかだフェスタ(直方市)



納涼花火大会(飯塚市)



川渡り神幸祭(田川市)

# 1. 事業の必要性 ②事業の投資効果

## (1) 事業の投資効果

項目	前回評価時 (令和5年度)	今回評価時 (令和7年度)	変更理由
総事業費	<b>約37.0億円</b> <b>【水辺整備】</b> ・田川地区 : 約5.3億円 ・中間地区 : 約7.8億円  <b>【自然再生】</b> ・エコロジカルネットワーク: 約23.9億円	<b>約50.7億円</b> <b>【水辺整備】</b> ・田川地区 : 約5.3億円 ・中間地区 : 約7.8億円 ・飯塚地区 : 約13.7億円  <b>【自然再生】</b> ・エコロジカルネットワーク: 約23.9億円	・飯塚地区の追加による事業費の追加。 ・集計世帯数の更新による便益の変更。 ・工事諸費を計上しないことによる費用の変更。
事業完了年	令和23年度	令和23年度	
B/C	7.1	9.1	
B(便益)	約291.2億円	約411.2億円	
C(費用)	約40.8億円	約45.0億円	

※令和7年度より、工事諸費を除いた額をC(費用)として算出。

※B/Cの算出は、便益を費用で除算することにより算出する。便益はアンケート調査によって求めた年支払い意思額と便益が及ぶ世帯数を積算し、これを社会的割引率を考慮し完成後50年分を足し合わせることにより算出する。費用は社会的割引率等を考慮した事業費と完成後50年分の維持管理費を足し合わせることにより算出する。

# 1. 事業の必要性 ②事業の投資効果

## ＜費用対効果等＞

	事業費	主な整備内容	便益（B）	費用（C）	B/C
全事業	50.7億円	－	411.2億円 ※社会的割引率 1%の場合： 893.2億円 2%の場合： 665.5億円	45.0億円 ※社会的割引率 1%の場合： 54.6億円 2%の場合： 49.6億円	9.1 ※社会的割引率 1%の場合： 16.4 2%の場合： 13.4
継続箇所	50.7億円	－	411.2億円	45.0億円	9.1
自然再生	23.9億円	－	168.5億円	21.1億円	8.0
遠賀川水系エコロジカルネットワーク再生	23.9億円	排水路改良、低水護岸工、管理用通路、モニタリング調査等	168.5億円	21.1億円	8.0
水辺整備	26.8億円	－	242.7億円	23.8億円	10.2
田川地区	5.3億円	親水護岸工、階段工、坂路工、管理用通路、高水敷整正、分散型落差工等	35.0億円	5.8億円	6.0
中間地区	7.8億円	親水護岸工、階段護岸工、階段工、坂路工、管理用通路、高水敷整正等	160.8億円	8.5億円	19.0
飯塚地区	13.7億円	高水敷整正、護岸工、階段工、管理用通路等	46.8億円	9.5億円	4.9
残事業	31.5億円	排水路改良、低水護岸工、管理用通路、高水敷整正、坂路工、階段工、分散型落差工、モニタリング調査等	190.7億円	20.1億円	9.5

※数字は小数点第2位で四捨五入。そのため、積み上げによって合計値の小数点第1位に誤差が生じることがある。

※令和7年度より、工事諸費を除いた額をC（費用）として算出。

	アンケート実施時期	アンケート配布数	有効回答数	集計範囲	集計対象世帯数	支払い意思額(円/月・世帯)
飯塚地区水辺整備	令和7年度	600	352	半径10km圏内	80,255	335
エコロジカルネットワーク再生	令和5年度	2,200	388	半径6km圏内	183,359	438
中間地区水辺整備	令和2年度	1,500	318	半径10km圏内	216,887	350
田川地区水辺整備	平成27年度	1,000	97	半径10km圏内	50,018	318

# 1. 事業の必要性 ②事業の投資効果

## 《効果名》

## 【効果の概要】

### ①便益の算出

：約411.2億円  
(生物の良好な生息・生育環境の保全・復元、良好な景観の形成、人と自然の豊かな触れ合い活動の場の確保、河川空間利用の増進等)

### ②地域のにぎわいの創出

(エコロジカルネットワーク再生) 地域住民による環境学習等の場の創出  
(田川地区・中間地区) 水辺イベントの開催の場  
(中間地区) 世界遺産「遠賀川水源地ポンプ室」を核とした観光拠点の創出  
(飯塚地区) 継続的な社会実験によるにぎわいの場の創出

P7、P22  
P8  
P9  
P10

### ③治水安全性の向上

(田川地区・中間地区・飯塚地区) 河川空間の利用者の安全性向上、巡視・管理の円滑化

P23、P26、P29

### ④良好な自然環境の保全

(エコロジカルネットワーク再生)  
・堤内側と堤外側の横断的連続性の再生と生物の生息場・避難場・産卵場としての機能向上  
・自然環境の保全に対する住民意識の向上  
・自然環境の保全による新たな環境教育の場の創出

P7、P20

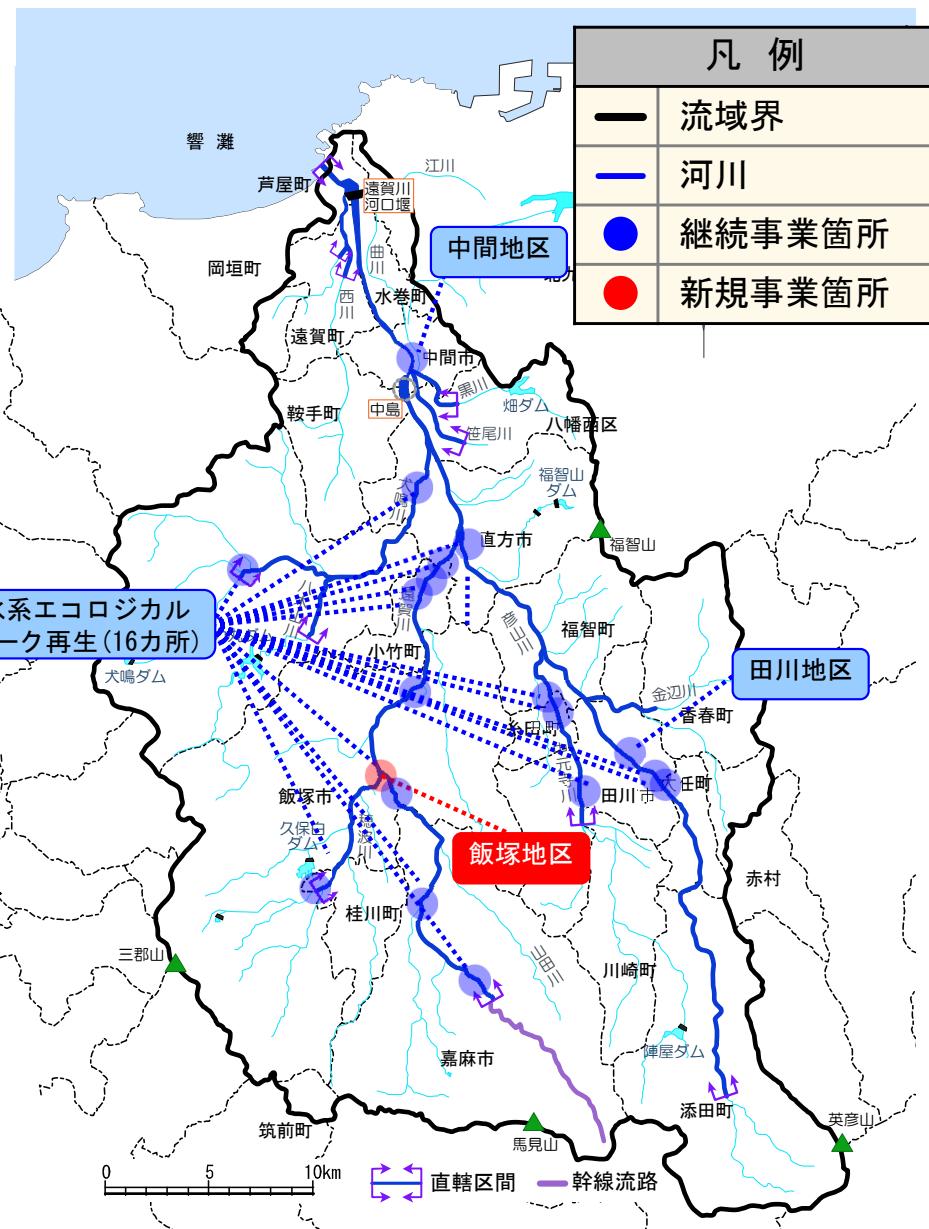
### ⑤費用対効果分析（算定に用いた効果①）

全体事業 (B/C) : 9.1  
残事業 (B/C) : 9.5

# 1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

## ＜事業評価(再評価)対象事業の概要＞

区分	箇所名	事業期間	備考
水辺整備	たがわ 田川地区	令和元年度～令和11年度	継続箇所
	なかま 中間地区	令和3年度～令和12年度	継続箇所
	いいづか 飯塚地区	令和8年度～令和17年度	新規箇所
自然再生	遠賀川水系エコロジカルネットワーク再生	平成21年度～令和23年度	継続箇所
遠賀川総合水系環境整備事業		平成21年度～令和23年度	



# 1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

## (1) 事業の進捗状況 (継続箇所: 遠賀川水系エコロジカルネットワーク再生(自然再生))

### 1) 事業の必要性

◆遠賀川流域では、高度経済成長期の河川改修に伴う堤防整備と併せて、数多くの樋門・樋管が整備されてきた。川の横断方向(川表と川裏間)については、これら樋門・樋管の水路部の段差により、魚類等の移動経路が分断されている状況である。

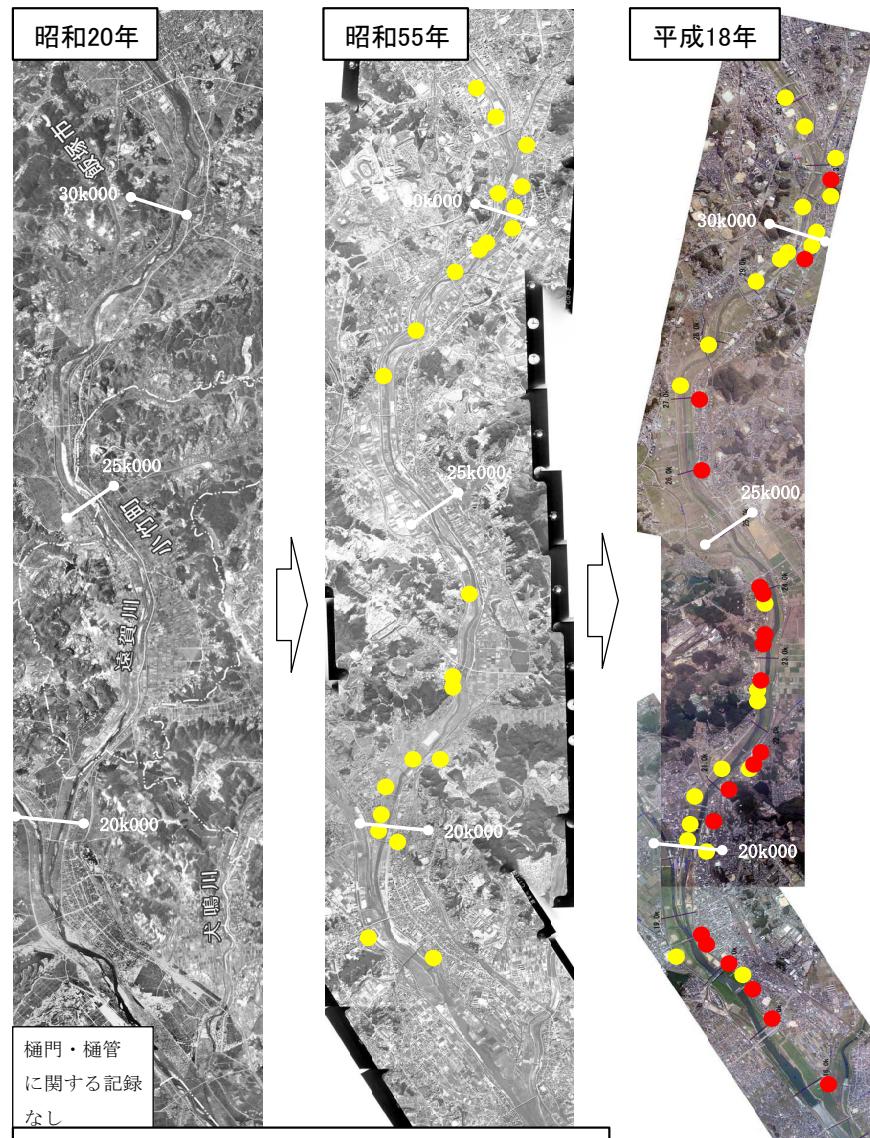
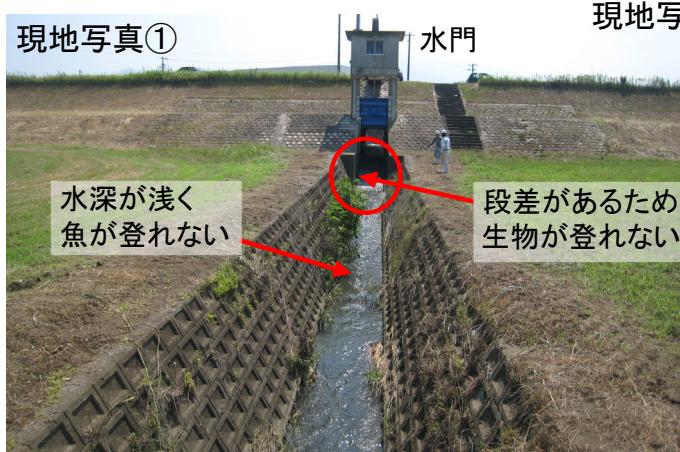
◆このため、本来の事業範囲である水系全体に先駆け、先進事例となるモデル地区において、川の横断方向の連続性を確保し、多様で豊かな自然の再生を図る。

生き物が川や水田・水路を自由に行き来できていた ⇒

【昭和38年頃の遠賀川】



【現地の状況】



遠賀川における樋門・樋管の設置の変遷

# 1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

## 2) 事業の目的・内容

◆河川と水田や水路との連続性を分断している樋門  
の落差等を解消するエコロジカルネットワーク整備  
を推進することで、多様な生物の生息場・避難  
場・産卵場となる環境を創出するとともに、環境  
学習や自然と触れあえる場として、利用しやすい  
構造の整備を実施する。

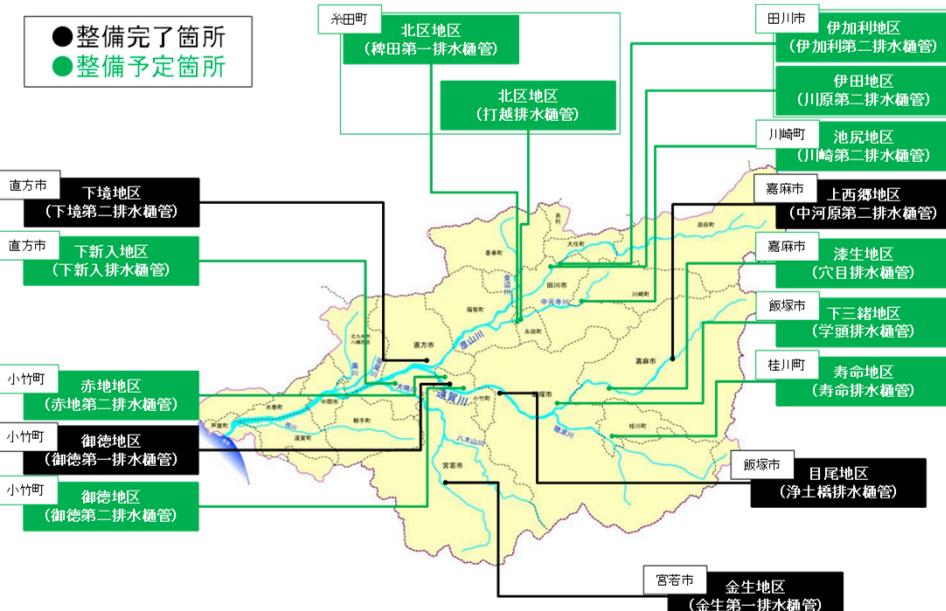
### 【概要】

位置	遠賀川水系彦山川下境地区 (彦山川0k900付近)、他15箇所
事業区分	自然再生
主な整備内容	排水路改良、低水護岸工、管理用通路、モニタリング調査等
事業費	約23.9億円
整備完了年	令和19年度
事業期間	平成21年度～令和23年度

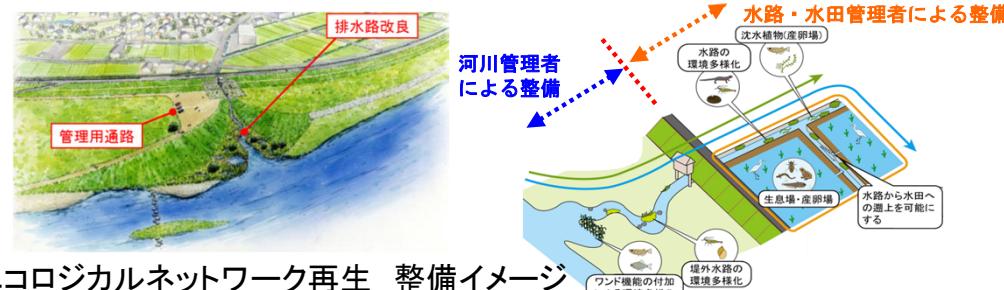
### 【工程表】

項目	H 21	H 22	H 23	H 24	H 25	H 26	H 27	H 28	H 29	H 30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R 10	R 11	R 12	R 13	R 14	R 15	R 16	R 17	R 18	R 19	R 20	R 21	R 22	R 23
排水路改良																																	
低水護岸工																																	
管理用通路																																	
モニタリング等																																	

エコロジカルネットワーク 整備箇所



※上図の整備予定箇所は、今後の社会状況の変化等により、変更が生じる場合があります。



エコロジカルネットワーク再生 整備イメージ

# 1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

## 3) 事業の現状

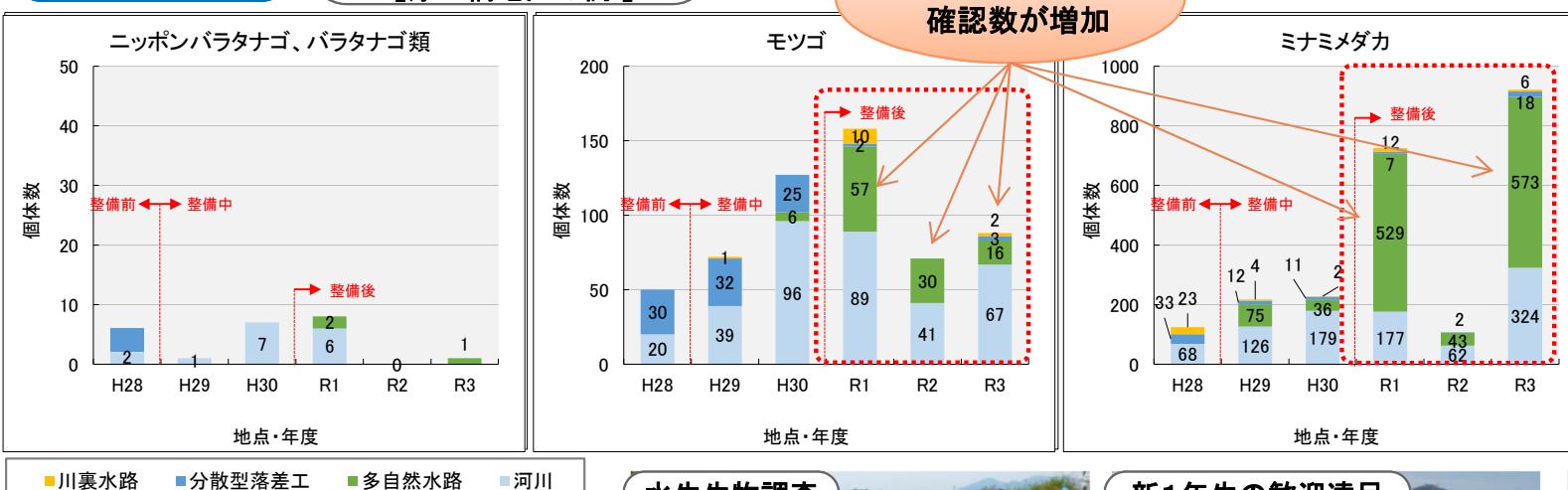
- ◆河川川表（河川側）の水路整備等により河川と水田や水路との連続性を分断している落差等が解消され、魚類等の生息範囲が拡大傾向にあり、魚類等の生息場・避難場・産卵場として機能しており、河川と堤内地とのネットワーク形成等の事業効果が確認されている。
- ◆整備箇所は、自然観察会や環境学習等を通じた地域住民の交流に活用され、人と自然とのふれあいの場として、地域の振興や住民の豊かな暮らしにも寄与している。
- ◆今後も引き続き、水路・水田管理者による川裏（水田側）水路環境向上に向けて協議・支援しつつ、整備後のモニタリングを実施していく。

### 整備前後の環境の変化



### 環境への効果

### 整備前後の魚類調査結果 【浄土橋地区の例】



整備後に多自然水路の確認数が増加

- ・水路整備等により川表・川裏水路で魚類等の生息範囲が拡大傾向にあり、多様な生物の生息場・避難場・産卵場として機能している。
- ・自然再生を軸にした交流や啓発等が行われており、河川と人とのかかわり、地域の振興や住民の豊かな暮らしにも寄与している。
- ・川裏水路では、魚類の生息環境を創出するために植生土嚢を設置し、水路から水田へ遡上させる方法として簡易的な魚道を設置している。

### 人の暮らしへの効果



### 水生生物調査



### 新1年生の歓迎遠足



### 除草活動

# 1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

## (2) 事業の進捗状況 (継続箇所: 田川地区(水辺整備))

### 1) 事業の必要性等

◆田川地区は、遠賀川の支川彦山川が流れ、福岡県の五大祭りの一つである「川渡り神幸祭」等、川とまちが深い繋がりをもつ地域である。散策や川遊び、カヌー等の利用がみられる他、近隣の小中学校の環境学習や自然体験等が実施されている。

◆しかしながら、田川地区の中流域や上流域は水際に樹木が生い茂っており、河川敷にアクセス路がない等により水辺に近づきにくい状況であった。また、下流域では高水敷の不陸が大きく利用しにくい状況であることから、散策や環境学習等で地域の方が水辺空間を利用する際の安全確保が望まれている。

田川地区 整備箇所



風治八幡宮 川渡り神幸祭



河川敷へのアクセス路が無いため、水辺に近づけない状況(上流域)



タガッパ学校(環境学習・カヌー教室)



高水敷の不陸が大きいため安全に水辺を利用しにくい状況(下流域)

# 1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

## 2) 事業の目的・内容

◆田川市の様々な地域資源を活かしながら、環境学習やコミュニティ、レクリエーションの場として多くの方々に親しまれ、まち・人・自然をつなぐ空間を創出するとともに、河川利用者の安全性の向上、河川管理等の円滑化を図るため、親水護岸工、階段工、管理用通路等の整備を実施する。

### 【概要】

位置	彦山川11k000～17k000付近
事業区分	水辺整備
主な整備内容	親水護岸工、階段工、坂路工、管理用通路、高水敷整正、分散型落差工等
事業費	5.3億円
整備完了年	令和6年度
事業期間	令和元年度～11年度

### 【工程表】

項目	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
親水護岸工											
階段工											
坂路工											
管理用通路											
高水敷整正											
分散型落差工											
測量設計等											
モニタリング等											

### 【下流域】

高柳堰周辺の地域資源の魅力を高めた、活気のある空間づくり  
⇒ カヌー乗り場の改善、イベント広場等の整備

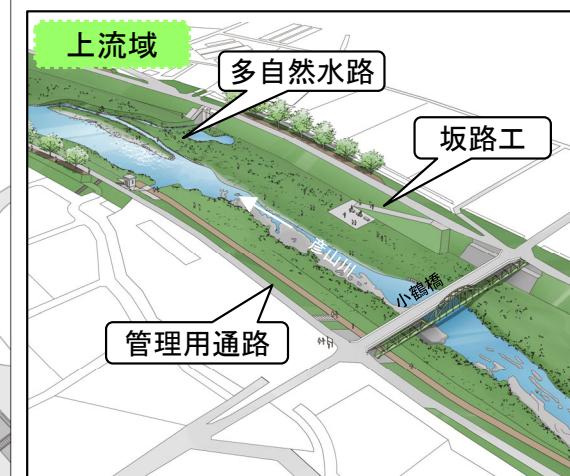
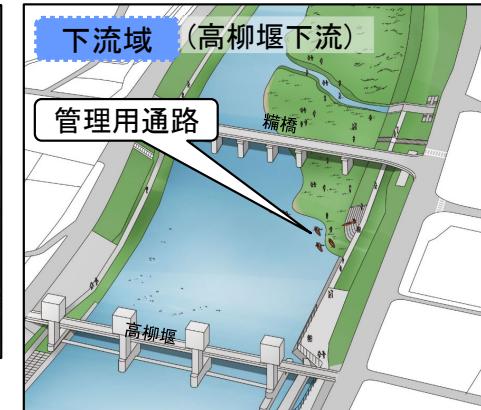
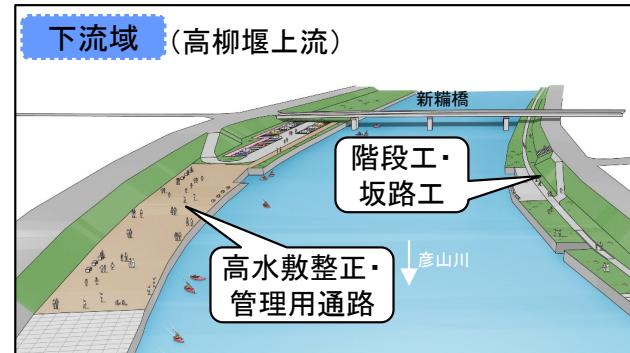
### 【中流域】

一年を通して彦山川や田川の歴史と文化に触れられ、憩える空間づくり ⇒ イベント広場、環境学習の場、散策路等の整備

### 【上流域】

香春岳等の山々と彦山川の織り成す原風景と、自然を活かした親しめる空間づくり ⇒ 散策路、水遊び・環境学習の整備

### 【整備イメージ】



# 1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

## 3) 事業の現状

- ◆田川地区においては、令和元年度～3年度に中流部、令和4年度に下流部、令和6年度に上流部の整備を行った。整備済みの中流部・下流部においては既に地域住民により日常利用のみでなくイベント開催の場として有効活用されている。
- ◆中流部では、地域住民で構成された維持管理のボランティア団体が組織され、地域住民が主体となり田川市と密に連携しながら利用と管理の両面を実践しているところである。
- ◆下流部・上流部においても、整備後の利用と管理について、ボランティア団体の組織を目指して部会で協議を行っているところである。

### 上流部

整備前の状況



彦山川へのアクセス路が無く、水辺に近づけない状況。

令和6年度整備済



彦山川へのアクセス路として階段を整備。また、安全に水辺に近づけるようにするために、階段護岸や散策路を整備。

### 中流部

整備前の状況



彦山川河川敷の水際に樹木が生い茂り、安全に水辺に近づきにくい状況。

令和3年度整備済



水際にアクセスできる階段護岸や散策路を整備。日常的な河川敷・水辺利用の安全性が向上。

### 下流部

整備前の状況



高柳堰の不陸が大きく利用しにくく、堰下流は水際へのアクセスが無く安全に水辺に近づきにくい状況。

令和4年度整備済



高水敷の不陸を整正し、利用しやすい広場を整備。堰下流側は、水際へのアクセス、川沿いの散策路・花壇を整備。

# 1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

## (3) 事業の進捗状況 (継続箇所: 中間地区(水辺整備))

### 1) 事業の必要性等

- ◆中間地区は、平成27年に登録された世界遺産『遠賀川水源地ポンプ室』を巡る観光客や、なかまフットパス等の河川敷で行われる様々なイベントや釣り・スポーツを楽しむ市民の方々に広く利用されている。
- ◆しかしながら、街と川、高水敷と水辺へのアクセスが困難な箇所、安全・安心・快適に利用しにくい箇所があり、安全な水辺の利用が困難な状態である。

中間地区 整備箇所



世界遺産「遠賀川水源地ポンプ室」



遠賀川河川敷の鯉のぼり



なかまフットパス



河川敷に凹凸があり広いスペースを十分に活用できない。遊歩道の利用安全性に課題。



土砂堆積により川と高水敷が分断されてしまっている。  
遊歩道の利用安全性に課題。



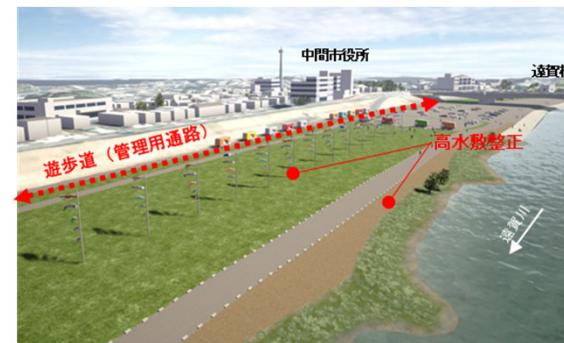
土砂堆積や草木の繁茂により水辺に近づくことができない。また、広場に雨水が溜まりやすい

# 1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

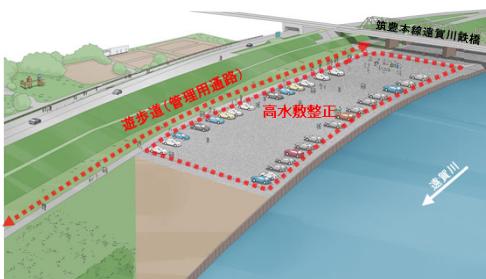
## 2) 事業の目的・内容

◆地域住民・市民活動団体・中間市・河川管理者等が知恵を出し合い、遠賀川の水と緑との親しみや、中間市の遠賀川と周辺の魅力とふれあうことで“まち”と“水辺”を繋ぎ、**地域の自立的・持続的な活性化**や、**賑わいのある河川空間を創出**するとともに、河川利用者の安全性の向上、河川巡視や河川管理の円滑化を図るため、親水護岸工、管理用通路、高水敷整正等の整備を実施する。

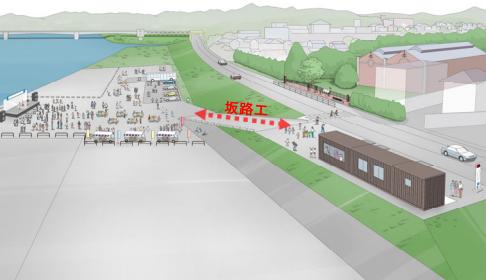
### 【整備イメージ】



市役所前の高水敷・水辺を活用するゾーン  
(左：遠賀橋上流、右：遠賀橋下流)



高水敷でスポーツ等を楽しむゾーン



世界遺産・中島を活用するゾーン

### 【概要】

位置	遠賀川8k800～12k400付近
事業区分	水辺整備
主な整備内容	親水護岸工、階段護岸工、階段工、坂路工、管理用通路、高水敷整正等
事業費	7.8億円
整備完了年	令和7年度
事業期間	令和3年度～12年度



項目	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
親水護岸工										
階段護岸工										
階段工										
坂路工										
管理用通路										
高水敷整正										
測量設計等										
モニタリング等										

# 1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

## 3) 事業の現状

- ◆中間地区においては、令和4年度から整備を実施中である。整備済み箇所においては既に地域住民により日常利用の場として有効活用されている。令和7年度は高水敷でスポーツ等を楽しむゾーンの遊歩道（管理用通路）の整備を実施中である。令和7年現在も利活用・維持管理計画について推進協議会、作業部会にて協議を行っており、地域との合意形成のうえ計画を進めることとしている。
- ◆中間市役所前の高水敷整正後の令和6年度には、市内外へのPRとして中間市の主導による広場の完成記念イベントが開催され、その後は日常利用や様々なイベント開催時に利用されている。

芝生広場整備完了お披露目会



お披露目記念式典

(令和6年6月開催)



チアダンス

整備後の利用状況



ドッグラン



自動車の品評会



キッチンカー



シャボン玉



なかま春祭りと、当日に行われた花火の打ち上げ



# 1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

## (4) 事業の進捗状況 (新規箇所: 飯塚地区(水辺整備))

### 1) 事業の必要性等

- ◆ 飯塚地区は飯塚市の市街地に位置し、夏には河川敷を利用した花火大会、秋には中之島でのナイトリバー in 飯塚や河川敷の清掃活動を目的とした「I LOVE 遠賀川」等、様々なイベントが開催されている。
- ◆ しかしながら、街と川、高水敷と水辺へのアクセスが困難な箇所、安全・安心・快適に利用しにくい箇所があり、**安全な水辺の利用が困難な状態**である。



河川敷のウッドデッキ



飯塚納涼花火大会



遠賀川水辺ピクニック



ナイトリバー in 飯塚



I Love 遠賀川



まちから川に安全にアクセスできない  
水辺に近づけない  
河川敷の平場が少ない



巨石が草で覆われて利用できない  
通路が歩けない

小休憩できるベンチ等がない

通路が歩けない

遠賀川



土砂堆積で通路を歩けない

河川への転落の危険

回遊できるアクセス路が不足

回遊できるアクセス路が不足

遠賀川

遠賀川

車両が進入できない  
水路部の高低差による転落の危険  
回遊できるアクセス路が不足

遠賀川

遠賀川

・水辺に近づけない。・通路が歩けない。  
・回遊できるアクセス路が不足。・車両進入が困難。  
・まちから川への安全なアクセス路が少ない。

安全性

・水路部の高低差による転落の危険がある。

利便性

・河川敷の平場が少ない。・小休憩できるベンチなど  
が少ない。・日陰となる橋の下が利用しにくい。

維持管理性

・傾斜部や巨石まわりは除草が困難。  
・通路への土砂堆積・雑草繁茂が著しい。

# 1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

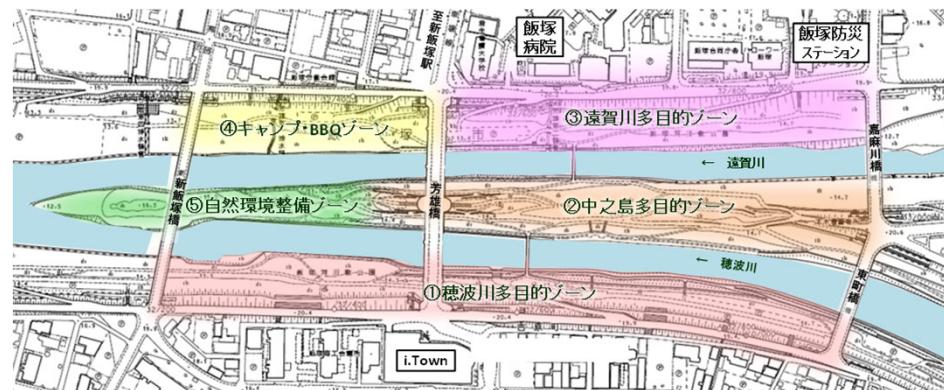
## 2) 事業の目的・内容

◆地域住民・市民活動団体・学識者・飯塚市・河川管理者等が知恵を出し合い、遠賀川・穂波川の自然環境を地域活性化の軸として日常生活向上、環境資源、観光資源として活用するために必要なアクセス性・利便性の高い河川空間を創出するとともに、河川利用者の安全性の向上、河川巡視や河川管理の円滑化を図るため、低水護岸、多自然水路、管理用通路、高水敷整正等の整備を実施する。

## 【整備イメージ】



整備イメージ : ①穂波川多目的ゾーン  
②中之島多目的ゾーン  
③遠賀川多目的ゾーン  
④キャンプ・BBQゾーン  
⑤自然環境整備ゾーン



## 【概要】

位置	遠賀川32k000～33k000付近 穂波川00k000～00k200付近
事業区分	水辺整備
主な整備内容	護岸工、階段工、管理用通路、高水敷整正等
事業費	13.1億円
整備完了年	令和12年度
事業期間	令和8年度～17年度

## 【工程表】

項目	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
護岸工										
階段工										
管理用通路										
高水敷整正										
測量設計等										
モニタリング等										

# 1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

## 3) 事業の現状

- ◆飯塚地区においては、かわまちづくり計画の立案に先立ち、社会実験として利用イベント「遠賀川水辺ピクニック」を令和元年度、令和6年度に開催し、利用ニーズや場の課題の抽出を行ってきた。また、令和7年度には、立案した利活用計画、整備計画の実効性等を検証するための社会実験が予定されている。
- ◆社会実験を重ねる過程において、地域住民を主体とした利用と管理の実施体制の強化が図られつつあり、飯塚市民からも拠点の魅力の再認知や利用環境向上の期待感が高まっている。
- ◆今後は地域による利用体制構築とともに、安全利用のための指導者育成も行っていくこととしている。

はじめての遠賀川水辺ピクニック

(令和元年9月開催)



水辺トレーニング



ウッドパネルで憩い空間

第2回 遠賀川水辺ピクニック

(令和6年11月開催)



カヌー（ボート）



キッチンカー



魚釣り



除草機械試乗体験



デイキャンプ（BBQ）



花植え体験

## 2. 事業の進捗の見込み

### (1) 事業費の変更内容(新規箇所: 飯塚地区(水辺整備))

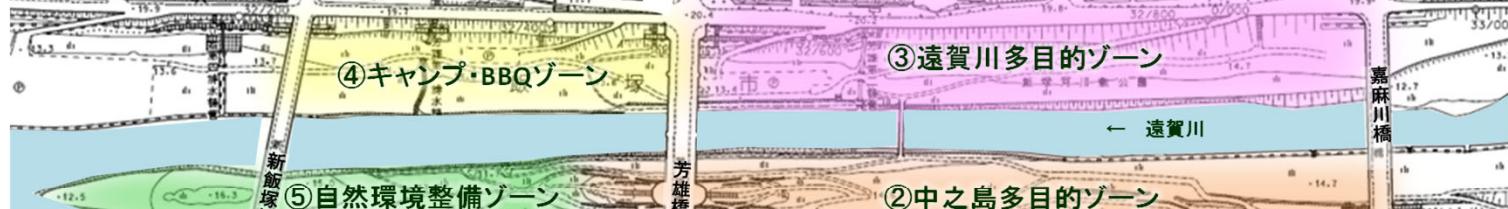
飯塚地区かわまちづくり計画の登録 本事費 約7.3億円

- 「飯塚地区かわまちづくり」は、令和7年8月に「かわまちづくり」制度に計画が登録された。
- 本計画は、遠賀川・穂波川の自然環境を地域活性化の軸として日常生活向上、環境資源、観光資源として活用するために、地域住民・市民活動団体・飯塚市・河川管理者等が知恵を出し合うことで、“まち”と“水辺”を繋ぎ、地域の自立的・持続的な活性化や、賑わいのある河川空間の創出を進めていくものである。

#### 【整備イメージ】



整備イメージ : ①穂波川多目的ゾーン  
②中之島多目的ゾーン  
③遠賀川多目的ゾーン  
④キャンプ・BBQゾーン  
⑤自然環境整備ゾーン



## 2. 事業の進捗の見込み

### (2) 事業の実施状況

◆事業名：遠賀川総合水系環境整備事業（福岡県）

◆計画（整備内容）：

＜自然再生（遠賀川水系エコロジカルネットワーク再生）＞

・排水路改良、低水護岸工、管理用通路、モニタリング調査等

＜水辺整備（田川地区、中間地区、飯塚地区）＞

・親水護岸工、階段護岸工、階段工、坂路工、管理用通路、高水敷整正、分散型落差工、モニタリング調査等

◆総事業費：約50.7億円

◆整備期間：平成21年度から令和23年度

◆事業進捗率：37.7%（工事諸費込み）

◆残事業費：約31.5億円

◆事業の進捗状況：

・遠賀川水系エコロジカルネットワーク再生は、下境地区、御徳地区、目尾地区、上西郷地区、金生地区で整備・モニタリングが完了し、漆生地区が整備期間中である。

・田川地区は、整備が完了し現在モニタリング期間中である。

・中間地区は、引き続き高水敷でスポーツ等を楽しむゾーンにおいて管理用通路等の整備を予定している。

・飯塚地区は、令和6年度にかわまちづくり計画を策定、令和7年度に「かわまちづくり」支援制度に基づき計画が登録された。その後も作業部会での協議や立案した利活用計画、整備計画の実効性等を検証するための社会実験を行いながら、整備計画の具体化を予定している。

## 2. 事業の進捗の見込み

### (3) 今後の事業展開

- ◆遠賀川水系エコロジカルネットワーク再生の整備内容においては、先進事例となるモデル地区において、その後のモニタリング調査により事業効果が確認されている。今後も令和7年度から新たな整備に着手しており、整備が完了した箇所からモニタリングを実施し、令和23年度に完了予定である。
- ◆田川地区では整備が完了し、令和7年度以降はモニタリングを実施し、令和11年度に完了予定である。
- ◆中間地区では一部整備中であり、令和7年度に整備完了予定である。令和8年度以降はモニタリングを実施し、令和12年度に完了予定である。
- ◆飯塚地区の整備内容においては、かわまちづくり計画に基づき整備の詳細を検討中の段階であり、令和12年度に整備完了予定である。令和13年度以降はモニタリングを実施し、令和17年度に完了予定である。

### (4) 今後の事業の進捗の見込み

- ◆遠賀川水系エコロジカルネットワーク再生では、整備が完了した箇所から順次モニタリングを実施している。令和7年度時点において下境地区、御徳地区、目尾地区、上西郷地区、金生地区の整備が完了し、整備後も「住民ワーキング」等による協力体制のもと維持管理を行う等、維持管理においても地域の協力体制が確立されていることから、今後も順調な事業進捗が見込まれる。
- ◆田川地区では、整備が完了した中流部では地域住民で構成された維持管理のボランティア団体が組織され、地域住民が主体となり田川市と密に連携しながら利用と管理の両面を実践する等、地域の協力体制が確立されていることから、今後も順調な事業進捗が見込まれる。
- ◆中間地区では、整備前の令和元年度に社会実験を行い、現地での具体的な整備内容の検討を行う等、地域の協力体制が確立されていることから、今後も順調な事業進捗が見込まれる。
- ◆飯塚地区では、整備前の令和元年度、6年度に社会実験を行い、現地での具体的な整備内容の検討を行う等、地域の協力体制が確立されていることから、今後も順調な事業進捗が見込まれる。

### 3. コスト縮減や代替案立案等の可能性

#### (1) 代替案の可能性の検討

- ◆遠賀川水系エコロジカルネットワーク再生の整備内容については、「遠賀川水系エコロジカルネットワーク検討会」や「住民ワーキング」等で議論を重ねた上で具体的な整備内容を検討しており、河川と堤内地とのネットワーク形成や魚類等の生息場・避難場・産卵場としての機能を考慮したコスト面でも優れた整備内容となっており、現計画が適切と考えている。今後も引き続き協議結果を踏まえて令和7年度以降も新たな整備に着手し、モニタリング結果を踏まえて整備内容の検討を続けていく予定である。
- ◆田川地区の整備内容については、「田川の宝！彦山川を創る会」や「上流部会」・「中流部会」・「下流部会」での議論や利活用の試行実践により必要性を検証しながら具体的な整備内容を検討しており、河川管理面、河川利用面等を考慮した上での適切な整備内容になっており、現計画が適切と考えている。令和6年度に整備が完了し、令和7年度以降はモニタリングを実施し、令和11年度に完了予定である。
- ◆中間地区の整備内容については、「遠賀川かわまちづくり推進協議会」、「遠賀川かわまちづくり作業部会」で議論を重ねた上で整備内容を検討しており、河川管理面、河川利用面等を考慮した上での適切な整備内容となっており、現計画が適切と考えている。令和7年度に整備完了、令和8年度以降はモニタリングを実施し、令和12年度に完了予定である。
- ◆飯塚地区の整備内容については、「飯塚憩いの会かわまちづくり協議会」、「飯塚憩いの会かわまちづくり作業部会」で計画段階から地域住民等と継続的に協議を重ねており、河川管理面、河川利用面等を考慮した上での適切な整備内容となっており、現計画が適切と考えている。

#### (2) コスト縮減の方策

- ◆飯塚地区では、引き続き協議会・作業部会を通じて利用安全性、維持管理性を考慮した整備内容の詳細を住民と協議することにしており、円滑な合意形成により手戻りを未然に防止し、コスト縮減を目指す。
- ◆今後は近年の技術開発の進展に伴う新工法等の採用による新たなコスト縮減の可能性等を探りながら、事業を進めていく方針である。

# 4. 対応方針(原案)

## ◆遠賀川水系エコロジカルネットワーク再生（自然再生）について

- ・河川と水田や水路との連続性を分断している樋門の落差等を解消し、多様な生物が生息・生育・産卵できる環境を創出するとともに、環境学習や自然と触れあえる場として利用しやすい排水路改良、低水護岸工、管理用通路等の整備を行う。
- ・整備完了箇所において、堤内側と堤外側の横断的連続性の再生により評価種・重要種が増加しており、生物の生息場としての機能が回復しつつある。
- ・「遠賀川水系エコロジカルネットワーク検討会」や「住民ワーキング」等の会議を継続的に開催し、学識者、関係自治体、地域住民、NPO等が一体となって事業に取り組んでおり、除草や外来種駆除活動等の維持管理面での地域ボランティアの協力が得られる等、自然環境の保全に対する住民意識が向上しており、事業への理解と地域の協力体制が整っている。
- ・自然環境を保全しつつ、新たな環境教育の場が創出されている。
- ・今後の事業の進捗やその後の実施判断については費用対効果やモニタリング調査結果を踏まえ、5年ごとに実施する事業再評価で判断する。

## ◆田川地区（水辺整備）について

- ・水辺に安全に近づけるよう水辺整備を行うことにより、遠賀川を軸とした地域の活性化、川遊び等のイベント活動の場・観光拠点の場を創出するとともに、河川空間の安全性の向上、河川管理の円滑化を図るため、親水護岸工、階段護岸工、階段工、坂路工、管理用通路、高水敷整正等を整備する。
- ・水辺整備にあたっては、河川環境の保全・再生に留意する。
- ・地域の歴史文化（福岡県の五大祭りの一つ「川渡り神幸祭」）の継承に資する事業である。
- ・「田川の宝！彦山川を創る会」等の会議を通じて学識者、自治体、地域住民等が一体となって事業に取り組んでおり、社会実験やボランティア団体設立等、事業への理解と地域の協力体制が整っており地域の賑わいの創出に資する事業である。
- ・水辺へのアクセス性の向上等、河川空間の利用者の安全性向上に資する事業である。

## ◆中間地区（水辺整備）について

- ・水辺に安全に近づけるよう水辺整備を行うことにより、遠賀川を軸とした地域の活性化、川遊び等のイベント活動の場・観光拠点の場を創出するとともに、河川空間の安全性の向上、河川管理の円滑化を図るため、親水護岸工、階段護岸工、階段工、坂路工、管理用通路、高水敷整正等を整備する。
- ・水辺整備にあたっては、河川環境の保全・再生に留意する。
- ・世界遺産「遠賀川水源地ポンプ室」周辺エリア一体を文化観光スポットとして観光振興に資する事業である。
- ・「遠賀川かわまちづくり推進協議会」等の会議を通じて利用と管理に関する協議が継続的に行われており、社会実験が行われる等、事業への理解と地域の協力体制が整っており地域の賑わいの創出に資する事業である。
- ・アクセス性や回遊性向上等により、河川空間の利用者の安全性向上に資する事業である。

## ◆飯塚地区（水辺整備）について

- ・水辺に安全に近づけるよう水辺整備を行うことにより、遠賀川を軸とした地域の活性化、川遊び等のイベント活動の場・観光拠点の場を創出するとともに、河川空間の安全性の向上、河川管理の円滑化を図るため、護岸工、階段工、管理用通路、高水敷整正等を整備する。
- ・水辺整備にあたっては、河川環境の保全・再生に留意する。
- ・地域の賑わいの場（飯塚市の中心市街地、花火大会の会場）や観光スポットとして観光振興に資する事業である。
- ・「飯塚憩いの会かわまちづくり協議会」等の会議を通じて利用と管理に関する協議が継続的に行われており、社会実験が行われる等、事業への理解と地域の協力体制が整っており地域の賑わいの創出に資する事業である。
- ・アクセス性や回遊性向上等により、河川空間の利用者の安全性向上に資する事業である。

◆事業進捗率37.7%（約19.1億円/50.7億円）（工事諸費込み）であり、令和23年度には事業完了予定である。

◆費用対効果（B/C）については、全体事業9.1、残事業9.5となっている。

以上より、引き続き事業を継続することとした。